

第2章 各区におけるまちづくり

1 門司区

1-1 地域の概況と課題

(1)門司区の概況

①まちの成り立ち、自然状況

- ・本市北東部の企救半島に位置する門司区は、本州と九州をつなぐ玄関口として、また、アジア地域と連絡する海運の要衝地としてまちが形成されました。
- ・半島中央部の風師山や戸の上山の山系、及び東西の関門海峡や周防灘の海洋など、豊かな自然に囲まれて市街地が形成されています。
- ・門司港地区を中心に、歴史的建造物の保存活用により、市を代表する広域的な都市型観光拠点となっていますが、その一方で地域の身近な商店街などでは活気が失われつつあります。

②生活圏、交通の状況

- ・門司区の日常生活圏※は、地域拠点である門司(大里)地区と門司港地区を中心とする概ね2つの圏域に分類されます。また、半島東部の地域(概ね松ヶ江北・南小学校地区)においては、小倉南区東部の地域拠点である下曾根地区と一体的な日常生活圏※が形成されています。

※日常生活圏とは、買い物・通勤・通院などで行動する範囲

- ・広域道路網としては、都市高速道路及び九州自動車道に並行して、国道3号、国道199号、県道門司行橋線などの広域幹線道路が南北に並行して走っており、これらの広域幹線道路を連絡するように県道新門司港大里線や県道大積清見線などが東西に走っています。
- ・公共交通網としては、地域拠点(門司港、門司)にあるJR鹿児島本線の門司港駅及び門司駅を拠点駅として、国道や県道沿いを主体に路線バス網が形成されています。
- ・また、恒見・喜多久地区では、おでかけ交通の運行が行われています。

③人口動向・構成

- ・人口は、平成27年現在10.0万人で、全市の10.4%を占めています。
- ・平成22年から5年間の減少率4.6%は、市内の他区と比べて最も高い減少率となっています。平成52年には7.3万人まで減少すると予想されています。
- ・高齢化率は35.2%で、市内でもっとも高く、平成52年には42.7%まで増加すると予想されています。
- ・可住地の人口密度は25.9人/haで、全市平均(32.5人/ha)より低くなっています。

	H22人口※	H27人口※				H27 高齢化率(%)	H27/H22	
		総数	15歳未満人口	15~64歳人口	65歳以上人口		人口増減数	人口増減率(%)
北九州市	976,846	961,286	119,448	549,397	277,120	28.8%	-15,560	-1.59
北九州市 門司区	104,469	99,637	11,224	52,241	35,060	35.2%	-4,832	-4.63
	面積(ha)	可住地面積(ha)	H27可住地 人口密度	H27 世帯数	H27 1世帯あたり人			
北九州市	49,195	29,609	32.47	426,325	2.25			
北九州市 門司区	7,367	3,853	25.86	43,082	2.31			
	H52将来人口							
	総数	15歳未満人口	15~64歳人口	65歳以上人口	高齢化率(%)			
北九州市	784,162	79,211	409,013	295,938	37.7%			
北九州市 門司区	72,753	6,462	35,260	31,031	42.7%			

※H22・H27 人口：国勢調査

※H52 将来人口：

国立社会保障・人口問題研究所

『日本の地域別将来推計人口

(平成25年3月推計)』による推計値

④土地利用

- ・企救半島の臨海部に沿って市街地が形成されており、区面積の約32%が市街化区域となっています。
- ・半島西部では、国道3号及び国道199号に沿って、工業地・商業地・周辺市街地が帯状に層をなして広がっており、背後の山際に斜面住宅地が分布しています。
- ・半島東部はかつて農漁村集落が主体でしたが、太刀浦地区や新門司地区などに物流拠点が形成され、県道門司行橋線沿いには新しい市街地も形成されています。
- ・街なかにおいても、工業跡地や駐車場等の低・未利用地が見られます。

⑤その他

- ・北九州市公共施設マネジメント実行計画に基づき、門司港地区及び門司(大里)地区では、老朽化した公共施設の集約(複合化・多機能化)や跡地の活用に関するモデルプロジェクト再配置計画を進めています。

(2)門司区の特性とまちづくりの課題

●港灣都市としての特性を活かしたまちづくりの課題

- 歴史的資源、豊かな自然及び農業・漁業環境の保全・活用や下関市との連携などにより、魅力あるまちづくりが必要です。
- 本市の観光発展に寄与するとともに、商店街等周辺への回遊性を高め、訪れたいまち、住みたくなるまちづくりが必要です。
- 太刀浦、新門司などの物流拠点を中心とする多様な産業の振興により、にぎわいと活力があるまちづくりが必要です。
- 公共交通の主要幹線軸である門司港、門司と小倉都心方面、門司と小倉南区下曾根方面を結ぶ区間について、乗り継ぎ向上などの機能強化、利用促進が必要です。

●豊かな自然を活かした住み続けられる居住地としてのまちづくりの課題

- モデルプロジェクト再配置計画の推進にあたり、まちのにぎわいや活性化に留意していくことが必要です。
- 市街地臨海部などの低・未利用地について、広域的な都市型観光拠点や恵まれた自然景観のある立地条件を活かし、有効利用していくことが必要です。
- 高齢化率が特に高いことから、人や地域のつながりを活かした安全・安心に暮らせるまちづくりが必要です。
- 防災上、居住環境上の課題を抱える斜面地住宅については、居住のあり方について検討を進める必要があります。
- 臨海部においては、津波や高潮等に対する防災・減災対策が必要です。

1-2 まちづくりの目標と方針

(1)まちづくりの目標

門司区の課題を踏まえて、区の将来像を描き、まちづくりの目標を定めます。

【目標】

- ◆門司港レトロ地区を中心として、歴史・文化を活かし、訪れたいまち、住みたくなるまちをつくる
- ◆街なかに多くの人が住み、心豊かに安全に安心して暮らせるまちをつくる
- ◆観光や物流など産業の多様化を進め、賑わいと活力があるまちをつくる
- ◆豊かな自然や農業・漁業が守られ親しまれるまちをつくる

(2)まちづくりの方針

まちづくりを構成する主な分野ごとに方針を定めます。

●土地利用に関する方針

豊かな自然を保全し、市街地においては、公共施設マネジメント実行計画(モデルプロジェクト再配置計画)の推進等により、街なか居住を進めていきます。

- ① 街なかにおいて、区役所等の公共施設の集約化を図るモデルプロジェクト再配置計画を進めます。
- ② 市街地臨海部において、低・未利用地などの土地活用を図ります。
- ③ 周辺市街地において、長期的な観点から、街なかの取り組みと連動した斜面地住宅等のあり方について検討を進めます。
- ④ 自然・田園ゾーンの豊かな自然を保全します。

●交通に関する方針

本市を代表する広域観光拠点として、交通施設の充実、幹線道路網や身近な道路の整備、公共交通の充実などを進めていきます。

- ① 歩行者や自転車の安全性や快適性を向上させるため、身近な道路の整備を進めます。
- ② 本州との交通結節点としての機能強化を図るため、公共交通相互の利便性向上と利用促進を図ります。
- ③ 産業・物流拠点としての機能強化を図ります。

●観光や美しい景観による魅力あるまちづくりに関する方針

本市の顔となる観光地として、魅力を高め、多くの人を訪れる賑わいのあるまちづくりを進めていきます。

- ① 港町としての歴史資源を活かした観光・レクリエーション機能の充実を図ります。
- ② 関門海峡や門司港レトロ地区を中心とした良好な景観形成を図ります。

●都市環境・自然的景観・公園緑地に関する方針

海や山に囲まれた門司区の持つ豊かな自然を活かした潤いあるまちづくりを進めていきます。

- ① 自然的環境の保全・活用を図ります。
- ② 農業・漁業環境の保全・活用を図ります。

●安全・安心なまちづくりに関する方針

コミュニティを基本に、誰もが安全・安心に暮らすことができるまちづくりを進めていきます。

- ① 臨海部における災害を想定した防災対策の充実を図ります。
- ② 斜面地の土砂災害や、低地の水害などの防止に努めます。
- ③ 超高齢社会に備えたまちづくりを進めます。

1-3 目標とする都市の構造

